

聖書：マタイ 4：1～4

説教題：人はパンだけで生きるのではなく

日時：2016年6月19日（朝拝）

3章後半でイエス様はバプテスマのヨハネから洗礼を受けて公の生涯に入られました。そのイエス様はまず何をされたのでしょうか。私たちは華々しくデビューする姿を想像するかもしれませんが。しかしこの4章に描かれているのはイエス様がまず荒野に向かわれたということです。人々が集まる場所から離れて、さみしい荒野で悪魔の誘惑を受けられた。これは悪魔がイエス様を無理やりそこへ引っ張って行ったということではありません。1節に「御霊に導かれて」とありますように、洗礼の時にイエス様の上に下り、これからイエス様の生涯を助けて行かれる御霊がイエス様をこの荒野へ導いたのです。ですからこれはイエス様のメシヤとしての働きに欠かせない出来事であったということになります。この出来事と対になっていることが旧約聖書にあります。それはエデンの園における悪魔の誘惑です。あの時、悪魔は最初の人間に誘惑をしかけました。そしてアダムとエバは悪魔の誘惑に屈してしまい、悪魔の支配下に入ってしまった。それ以来、全人類は悪魔の支配下にあると聖書は語っています。このような状況から神はどのようにして人間を救おうとされたのでしょうか。創世記3章15節：「わたしは、おまえと女との間に、またおまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」この約束に従ってついに現われた女の子孫がイエス・キリストなのです。最初の人間アダムが失った祝福を取り返すために、新しいアダムとして悪魔と戦い、ご自身につながる者たちを悪の支配から救い出すために現れたのがこのキリストなのです。

イエス様は荒野で40日40夜断食して、父なる神と祈りの交わりをされました。その祈りに完全に没頭していたために食事を取ることすら忘れるほどだったのでしょうか。他の福音書を見ると、この40日間にも悪魔の誘惑があったことが分かります。しかしその期間が終わろうとするこの時、クライマックスとして三つの誘惑がありました。その一つ目について今日は見て行きます。

3節：「すると、試みる者が近づいて来て言った。『あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。』」これはどういう誘惑でしょう。悪魔はもちろんイエス様が神の子であることを知っています。ですからイエス様が命じれば石がパンになる

ことは分かっています。石をパンに変えることができない人に、それをやってみよとけしかけても、それはできないのですから何の誘惑にもなりません。しかしイエス様にはできるから誘惑になり得るのです。サタンはここにどんな目的を持っていたのでしょうか。そのことは4節のイエス様の答えを見る時にはっきりします。4節：「イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」

イエス様の答えについて3つのことを見て行きたいと思います。まず注目したい一つ目は、イエス様がここで「人は～である」と答えられたことです。すなわちイエス様はここで人として戦っておられた。悪魔は「あなたが神の子なら」とけしかけて、神の力を使うように誘惑しましたが、イエス様は「人は」と答えて、人が歩むべき道を進んでおられます。これはどういうことでしょうか。イエス様が私たちの救い主となるための条件は、私たちの身代わりに十字架上で死んでくださるだけでなく、その前提として人としての完全に正しい生涯を送るということがあります。完全にきよい、正しい人であってこそ、身代わりになれます。そのためにイエス様はここでサタンから「神の力を使って手っ取り早く自分のお腹を満たしたら？」とそそのかされても、人としての正しい生き方をささげることに踏みとどまっておられるのです。

二つ目に注目したいことは、人としての正しい生き方を貫く上でイエス様が取った戦い方です。それはみことばを正しく引用することです。思い出されるのは最初の人間アダムとエバの失敗です。あの時、エバは神の御言葉を持ち出して戦おうとしました。悪魔が「神は本当に園のどの木からも食べてはいけないと言われたのですか。」と問うたのに対し、彼女は「そうではありません。神はどの木からでも思いのまま食べて良いと言われたのです。」と答えました。しかしイエス様との大きな違いはエバは神の言葉に忠実ではなかったことです。神は善悪の知識の木からは取って食べてはならないと言われただけでしたが、エバは「食べてはならないし、触れてもいけない」と、神が言っていなかったことも付け加えました。また神は「それを食べたなら、あなたは必ず死ぬ」と言われたのに、エバは「死ぬといけないからと神は言われた」と御言葉の厳しさを薄めました。こうしてエバは自分の都合で御言葉を改変したのです。これは結局、神に従っているのではなく、自分の思いに従っていることです。私たちはここから御言葉は正しく覚えなければならないことを思わされます。そしてそこに踏みとどまることこそ、この時のイエス様のようにサタンの誘惑に打ち勝つ秘訣となることなのです。

三つ目に注目したいのは、イエス様がここで引用したみことばの意味についてです。時々この御言葉は次のように間違っ理解されている場合があります。すなわち人は具体的な食物であるパンによって生きるだけでなく、霊的な食物である神の御言葉によっても生きる者である、と。「肉の糧」と「霊の糧」の両方が必要であると。しかしそれではここでは意味が通じません。イエス様は今、お腹がすいている状態でサタンから「石をパンに変えて食べたかどうか」とけしかけられています。そこで「人はパンだけで生きるのではなく、霊の糧である神の言葉によっても生きる」と答えたところで、何の解決にもなりません。それでお腹が満たされるわけではないのです。ですからここはそういう意味ではありません。この言葉の意味は、もともとの箇所である申命記8章2～3節を参照すると分かりやすいと思います。「あなたの神、主が、この40年の間、荒野であなたを歩ませられた全行程を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナを食べさせられた。それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたにわからせるためであった。」ここから分かることは、イエス様が引用されたこの言葉は、荒野の40年間、天から降ったマナの話と関係しているということです。人にはもちろんパンが必要です。「人はパンだけで生きるのではなく」という言葉は、パンはいらないと言っているわけではありません。パンは必要です。しかしこの御言葉が言っていることは、そのパンに私たち人間の命がかかっているかのように考えてはならないということです。むしろ私たちが真に目を向けるべきは、「人は主の口から出るすべてのもので生きる」ということです。ここで言う「主の口から出ることば」とは、先に見たように、聖書の言葉とイコールではありません。これは「神の御心の現れ」としての言葉のことです。天地創造の際、神が「光があれ」と語られた時に、それができました。神の意志はそのように神の言葉を通して現わされます。ですからこの「神のことばによって」とは、「神ご自身の意思によって」、あるいはもっと単純に「神によって」ということです。神がこのようにあれ！と意思し、命じてくださることによって、人は生かされ、保たれる。パンが私たちを支えているのではない。大切なのはパンを与えて支えてくださる神です。この神にこそ目を上げ、信頼しなければならない。

その学びが荒野でのマナの生活によってイスラエルに与えられました。荒野では当然、

普通の食事はできません。「人はパンによって生きる」と考えたら、そこは決して人が生きられない世界です。しかし人はパンだけで生きているのではないことを知らせるためにマナの奇跡がありました。出エジプト記 16 章 14～15 節：「その一面の露が上がると、見よ、荒野の面には、地に降りた白い霜のような細かいもの、うるこのような細かいものがあつた。イスラエル人はこれを見て、『これは何だろう。』と互いに言った。彼らはそれが何か知らなかったからである。モーセは彼らに言った。『これは主があなたがたに食物として与えてくださったパンです。』」 人々は天から降った白いものを見て「これは何だろう。」と言いました。「一体これは何?」。これが「マナ」という言葉の意味です。それまで彼らが見たことも聞いたこともないもの。彼らの経験外のものです。神はそのような「一体これは何?」というような彼らが知らなかったものをもって、荒野で生活する彼らを養い続けて下さいました。これによって彼らは何を学ばされたでしょうか。それは人はパンだけで生きるのではない、ということです。私たちの命は神の御手にこそある。神が「かくあれ!」と意思されるその言葉によって生きる。だから私たちはパンに期待し、パンに依存するのではなく、神にこそ信頼し、神の導きこそを待ち望むべきである。

このことから、悪魔の誘惑の目的が見えて来ます。サタンの狙いは一言で言えば、神に対する信仰から足を踏み外させることです。神に信頼して歩むという本来の人間が歩むべき正しいルールから一瞬であれ脱線させて、転覆させることです。悪魔はイエス様に「神はどうやらあなたを守って下さらないようだから、自分の力でパンを作って食べたら」とけしかけました。イエス様はしようと思えば石をパンに変え、食べることができます。しかしもしそうしたら、それは神を信じていないことになります。神への信仰を投げ捨ててパンに依存することになる。これでは神を信じなかったアダムとエバと同じ罪を犯すことになります。その結果、救い主としてのイエス様の歩みはここで頓挫することになります。悪魔が再び勝利することになります。

私たちが思うべきは、これはイエス様にとってリアルな誘惑であつたということです。良く思い巡らすべきはイエス様は私たちと同じ肉体、同じ精神を持っていることです。そのイエス様が 40 日 40 夜断食して祈りの交わりをされたことも驚きですが、その後にやって来た空腹を誰が想像できるでしょう。これは想像を絶する空腹です。ほとんどの人が経験したことのない空腹です。その状態でサタンから「石をパンに変えて食べたら」と提案された時、そこにあつた丸い石が美味しいパンにダブって見えてくるというのは

現実の話だったでしょう。一言命じればそうなるのです。そして食べられるのです。これは大変な誘惑だったのです。

お腹がすいて誘惑に負けた人間としてエサウが思い出されます。彼は野で狩をして、疲れてヘトヘトになって帰って来たところ、弟ヤコブがレンズ豆のスープを作っていたのを見て、その赤いのを食べさせてくれ！と言います。そして弟から「あなたの長子の権利をまず私に売って下さい。」と言わると、「そんなものなど、今の私に何になろう。それよりもそのスープだ！」と言って、長子の権利と引き換えに、目の前のスープにありついた。ヘブル書 12 章 16 節：「一杯の食物と引き換えに自分のものであった長子の権利を売ったエサウのような俗悪な者がないようにしなさい。」 私たちもお腹がすくと、こういう行動を取りやすいものです。目の前の食べ物を見て、お祈りも後回しでがつつ食べる。しかしこれでは「人はパンによって生きる」とその人が考えていることにならないでしょうか。食事だけの問題ではありません。日々の歩みの中で、私たちも厳しい状況に置かれる時があります。そしてそんな中では「神に従う」などと悠長はことは言っていられない。とにかく今は自分を早く救い出さなくては！と駆り立てられ、多少うそをついても、あるいは聖書の原則にかなわない道を選んででも、この状況から脱出しようとするかもしれません。しかしそれは神に信頼せず、自分の力で石をパンに変えることと同じではないでしょうか。その人は「私は神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる」という信仰告白を否定していることになる。そう考えると私たちはいかに神にではなく、パンや、物や、お金や、人間関係や、自分の知恵により頼む生活をしていることでしょうか。そうして目の前にぶらさげられたサタンのおなかに飛びつく人は、神が備えている本当の祝福にはあずからないこととなりますし、サタンがニンマリする結果となるのです。

しかし私たちにとっての希望は、ここにサタンに勝利した人がいるということ。人類の歴史の中でサタンに全く屈しなかった人がいる。私たちに希望を与える新しいアダムがここに現れたのです。確かにこれはまだ第 1 ラウンドにしか過ぎません。これから何ラウンドもの戦いが必要になります。しかしイエス様はその戦いに最終的に勝利を治めてくださるのです。そしてご自身に連なる者たちに、この勝利を分け与えてくださるのです。

そして私たちも、このキリストに結ばれ、キリストにより頼みつつ、悪魔との戦いを

戦うようにと召されています。サタンは私たちがキリストから目を離し、救いの道から脱線転覆するようにと迫って来ます。そのために悪魔が用いる一つの方法は、私たちが置かれている困難な状況を指し示すことです。「もはや今のあなたの状態は神の御心などと言っている場合ではないのではないか。あなたは神に見捨てられているからこんな状態に放置されているのではないか。神はもうあなたのことなど心にかけていない。そんな神にいつまで信頼してもむなしだけであり、このままでは取り返しのつかないことになる。だからもう神に信頼する生活はやめて、自分で自分を助け出さなさい。みことばに従うなどと枠を狭くしていると、益々可能性は少なくなるのだから、そんな制限など取っ払って、あなたが良いと思う道に進みなさい。」 そのように私たちの不安を煽って私たちを浮き足立たせ、軽率な歩みへ、そして転落する歩みへ導こうとします。そんな中で私たちがイエス様にならってしっかり掲げるべきはこのみことばです。「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」 私たちを生かし、守ってくださるのは神である！この方に私は全く信頼する！と。その時、何という大きな希望の世界が心に拓がるでしょうか。私たちは自分で自分を救い出さなくて良いのです。人間的な小賢しい方法に走ったり、神が喜ばない道を進んで後ろめたい思いを持つ必要もない。神こそ私をその大きな御手と深い御心とによって私を守り導いてくださる方。この神に信頼して御言葉に従う歩みへと神は招いています。神は私たちを救い出すためのご自身の「方法」とそのための「時」を持っておられます。それは私たちの考える「方法」と「時」とは違うかもしれません。しかし神はご自身の良い計画をお持ちです。その計画に従って導いてくださいます。その道を進み、神が備えておられる一番の祝福、最善の祝福の道にこそ歩みたいのです。